

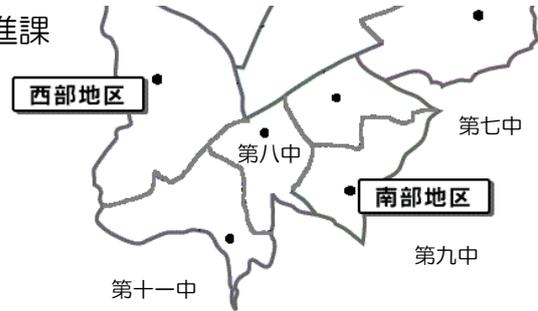
平成30年2月15日発行

南部・西部地区の区立中学校の統合に向けた取組の状況をお知らせします

学校統合推進課だより(南部・西部地区版)No.25

発行：目黒区教育委員会事務局 学校統合推進課

今号では、学校統合によって、より期待される教育効果として、学級同士による切磋琢磨について、お伝えします。



学校統合によって、より期待される教育効果～学級同士による切磋琢磨

■望ましい学校規模と学級同士による切磋琢磨

生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえると、区立中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えます。

目黒区教育委員会では、平成15年9月に区立中学校の統合方針「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」を策定し（平成24年3月改定）、区立中学校について、学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模が望ましいとしています。

この適正規模化が図られることにより、活力ある学習活動を展開し、集団の中で豊かな人間関係をはぐくみ、充実した学習・指導体制を整えるために求められる生徒数と教員数を確保できるものです。

学級同士が切磋琢磨する環境が作られ、生徒の意欲や成長を引き出すという教育効果が、より期待されます。

■学校統合により開校した目黒中央中学校の状況

このような観点で、平成18年4月に第二・第五・第六中学校の統合により開校した目黒中央中学校の状況を裏面で紹介します。

※ 目黒中央中学校の生徒数・学級数

平成29年5月1日現在

生徒数				通常学級数				しいの木学級在籍者数				しいの木学級数
1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
203	164	154	521	6	5	4	15	4	8	7	19	3

■目黒中央中学校 森田正藏校長にお話を伺いました

目黒中央中学校は、学校統合により開校して12年目になりますが、学級同士による切磋琢磨が自然と醸成される雰囲気があります。

例えば、体育祭の学年種目や文化祭の合唱コンクールでは、学級が一致団結して競い合っています。どちらの行事も生徒による実行委員会が中心となって運営されており、教職員はその主体性を活かそうとする立場にあります。

体育祭では、1年がいかだ流し、2年が大縄跳び、3年が大ムカデの種目で学級同士が対抗しました。また、文化祭の合唱コンクールでは、課題曲のほか学級ごとに自由曲を選んで参加しました。生徒たちは自主的に朝練習をしたり、学級ごとのスローガンを作りながら団結力を高めていきました。

校長による全員面接の場では、生徒たちから、こういった経験を通じて、相手のことを考えるようになった、結果として勝てなくても達成感を得たなど、様々な言葉を聞くことができました。

目黒中央中学校の体育祭学年種目、文化祭合唱コンクールの様子や練習風景など



南部・西部地区の区立中学校の統合に関するご意見・ご質問等は、学校統合推進課にお願いします。

【問い合わせ先】学校統合推進課 電話：5722-9301（直通）

Eメール：kyoiku05@city.meguro.tokyo.jp

ホームページ：

http://www.city.meguro.tokyo.jp/kyoiku/gakko_kyoiku/chugaku_togo/index.html